

立居振舞・主体的な学習・チーム力
～第1学期終業式校長講話～

越谷北高等学校長 下山忍

1学期の終了にあたりまして、私からお話をさせていただきます。

最初に、「立居振舞」について話します。

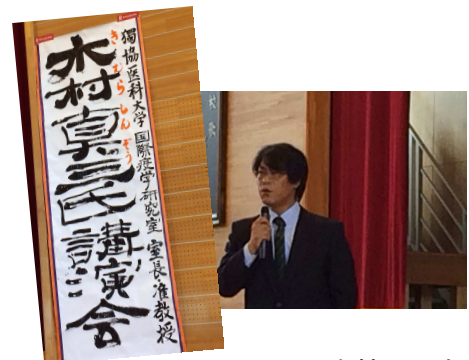
余り話題にならなくなりましたが、サッカー・ワールドカップ・ブラジル大会も、ドイツの優勝で幕を閉じました。私も全ての試合を観戦したわけではありませんが、鍛え抜かれた身体と、磨き抜かれた技術をもった世界トップクラスの選手たちの真剣勝負は、やはり見応えのあるものでした。「やはりヨーロッパ勢は南米より強い!」、「強豪チームがグループリーグで姿を消すなどレベルの高い大会だった!」などの論評もありました。開催国のブラジルがドイツに大量7点を取られて敗れましたが、勝負というものの非情さを感じました。思わず、ブラジルの監督や選手たちに同情するほどでした。日本代表も1引き分け2敗でグループリーグ敗退でした。期待されていただけに大変残念でしたが、また次の目標が出来たということなのだろうと思っています。

しかし、試合と離れたところで、嬉しいニュースもありました。日本人サポーターが試合後に観客席のゴミ拾いをしたことに対し、リオデジャネイロ政府環境局が表彰状を渡したということでした。応援に使った青いビニール袋を使い、負けた試合にも拘わらず、いつもゴミ拾いをして会場を整えたとのことでした。リオデジャネイロの環境局長からは「日本は試合に敗れたが、環境意識ではチャンピオン。我々も手本としたい」との言葉があったそうです。新聞は「日本サポーター、マナーで金メダル」と報道していました。日本という国や日本人に対する信頼を高める上で大きな貢献を果たしたのだと思います。「立居振舞」の大切さを改めて感じました。「立居振舞」によって信頼を得たり、逆に信頼を失ったりすることは、こうした国レベルの話だけではなく、日常生活の中でも、きっと多いことでしょう。

実は、嬉しい話がありました。7月15日に南越谷のスターバックスにおいて、本校生徒がアイスコーヒーをこぼしたお年寄りを助けたということです。それを見ていた方から「今どきの高校生にも、このようにさわやかな行動の取れる若者がいることに感心した。」ということでした。昨年もお年寄りや小学生を助けた善行の話がありましたが、今年もこのような話ができることを校長として誇りに思っています。越谷北高校への信頼を高める行動だったと思います。自分ができることをさりげなく、しかし積極的に行うこと。そして、いつでもどこかで誰かに見られていると意識して行動することが必要だと思っています。

次に、「主体的な学習」について話します。

7月15日にサンシティ越谷を会場に進路講演会を行いました。サイエンスナビゲーターの桜井進先生をお招きし、円周率π(パイ)にまつわる講演をしていただきましたが、素晴らしい映像と興味深いお話に、時間があっという間にたちました。学問の楽しさ、そして奥行きを伝えていただいたと思っています。理系の生徒諸君はもとより、文系の生徒諸君にとってもとても意義深い講演会であったと思っています。また、6月26



日に本校で行わ

れた3年生の講演会でも、獨協医科大学の木村真三先生から「学問は社会のためにある」というメッセージをいただきました。いずれの講演会でも、私が嬉しかったのは、生徒の皆さんから、積極的な質問が続いたということでした。多くの人前で発言するのは、大変勇気のいることですが、皆さんにとって、将来必要とされることだと思っています。また、質問の中には素晴らしい内容もありました。素晴らしい質問というのは、講演の内容に正対している質問です。これは、自分がしっかりと考えていなければなりません。別の言い方をすれば、講演を聞いて、皆さんの頭の中で講師の先生とのコミュニケーションがなされているということで、いわば講師の先生の脳と自分の脳が格闘しているということなのだと思います。



こうした「主体的な学習」は、普段の授業にもあります。私は時々皆さんの授業を参観していますが、例えば英語の授業で先生の説明を聞きながら辞書を引いている人も多く見かけます。数学の授業で、先生の説明に対して、別の解き方を提案している人もいました。何かの話を聞いて、それを自分で調べ直すことも「主体的な学習」でしょう。こうした「主体的な学習」は、自分自身の能力を飛躍的に伸ばすことになると思います。相手の話をしっかりと受け止め、自分の頭でしっかりと考える。そして発信する。これを心がけてください。

最後に「チーム力」という話をします。

学校は大きな1つのチームですが、その中にもいくつものチームがあります。部活動は他校とのゲームや交流等もあるので、意識することが多いと思いますが、ホームルームも体育祭や球技大会などでまとまると思います。北高のすごいところは学年のチーム意識も強いところです。人のやる気は環境によってかなり左右されます。

学習していく上で、クラスの雰囲気はとても大切だと思います。学ぶ雰囲気作りが、結果にも結びついていくと思います。こうしたことから「受験は団体戦」という言い方もします。お互いを高め合えるチームであることを願っています。お互いを高め合うためには、暖かさが必要ですが、暖かさは、共に歩いていく心強さでしょうか。厳しさというのは、何かその人に厳しいことを言うというのではなく、

自分を刺激してくれる存在、時に起こる自分の怠け心に打ち勝つための存在だと思っています。昔から「ライバルが自分を育てる」という言葉がありましたが、そういうことかもしれません。そのような観点から、意味で3年生には、同じ志望校をもつチームをつくったらどうかな、と思っています。夏休みの講習には、かなり志望校を意識した講座もあると思います。そうした講習の講座がチームなのだと思っています。特に難関大学を目指す人は、最後まであきらめずに貫く。そういう自分を支えるチームが出来ていけばいいと思っています。

以上、3つのことを話しました。

明日からは夏季休業となります。1年間で最も長い休業です。40日間は長いようですが、過ぎてしまえばあっという間だと感じるに違いありません。心して過ごしてください。そして、暑い夏、体調管理をしっかりと、事件や事故に巻き込まれることなく、健康・安全に過ごしてください。それでは、2学期始業式にお会いしましょう。

